

｜特集｜

ポケットエコーは 在宅ケアでこう 使える！

現場でどう使うか、
現場はどう変わるか

最近では手頃な価格の「ポケットエコー」が市場に出始め、エコーを手にする訪問看護師もちらほらと見られています。

とはいえ、馴染みがないという方がほとんどではないでしょうか。

中には、「エコーって看護師が取り扱うようなものではないでしょ」という考えの方、「訪問看護は五感が命!」とエコーという機器そのものにアレルギーをお持ちの方もいるかもしれません。

ポケットエコーを活用している訪問看護師たちは、どのような考えのもとで導入に踏み切ったのでしょうか。そして、どんなふうに普段のケアに活かしているのでしょうか。

今特集では、プローブの持ち方や操作法、画像の見方といった技術的な話には立ち入らず、現場へ導入した意図、運用の仕方、生まれた効果に注目！ 先行している実践者の声を集めました。

4つの現場報告から、非侵襲的に膀胱の尿量のアセスメント、肺炎のスクリーニング等ができるというメリットだけでなく、利用者本人・家族、医師や他職種とのコミュニケーションの深化、はたまた訪問看護ステーションの組織力向上という機能面でのメリットも見えてきました。



写真のシグマックス社「ポケットエコー miruco」も、手頃な価格の商品の1つ。プローブ1台とタブレット表示器1台のセットで約500g、Wi-Fi環境下では画像のメール送信が可能（USB接続端子あり）。本特集内で登場する訪問看護ステーションは全て本製品を使っている。